

内地方の南部並びに新潟県北部にかけては、黒色稀には緋の頭巾式のを被り、由利郡奥地と秋田県北秋田郡日立内地方には僅かではあるが、普通の手拭を以て、何れも殆ど目の部分だけを出す被り方、つまり覆面をする。

しかし、それ等の形態を更に詳しく調べると個人差もあり、尚同名異形、同形異名のものも相当あり、それをする理由について古い時代は判らぬが、現在に於ては特に若い婦人の日焼けを防ぐためということが主である。

B-82 東北地方の一部に見られる農村婦人作業衣としての覆面について

秋田経済大短大 守屋 馨村

1. 研究の目的 東北地方の一部には農村作業衣として、現在も一年を通じて覆面姿を見る。その姿の特異性については見る者をして全く啞然たらしめるものがある。そこで、その覆面する目的、地域的季節的相違並びにその方法などについて究明せんとするものである。

2. 方法 覆面姿を見る各地を廻り、いろいろ調査し且その被り方は8ミリ映画に撮影して学んだのである。

3. 成果 青森県、秋田県、山形県、新潟県の一部には戸外作業をする婦人が覆面をしておる者が相当多数おり、場合によっては車窓から見る婦人の100%がその姿であることもある。然るにその形態を地域別に調査した結果は、青森県下北半島に於ては、白色の四角の布を対角線に折って三角巾として被り、秋田県由利郡から山形県庄内地方の北部にかけては黒色か、稀には緋の顔帯とでもいうべきもので頭部を巻き、その由利郡の奥地と庄